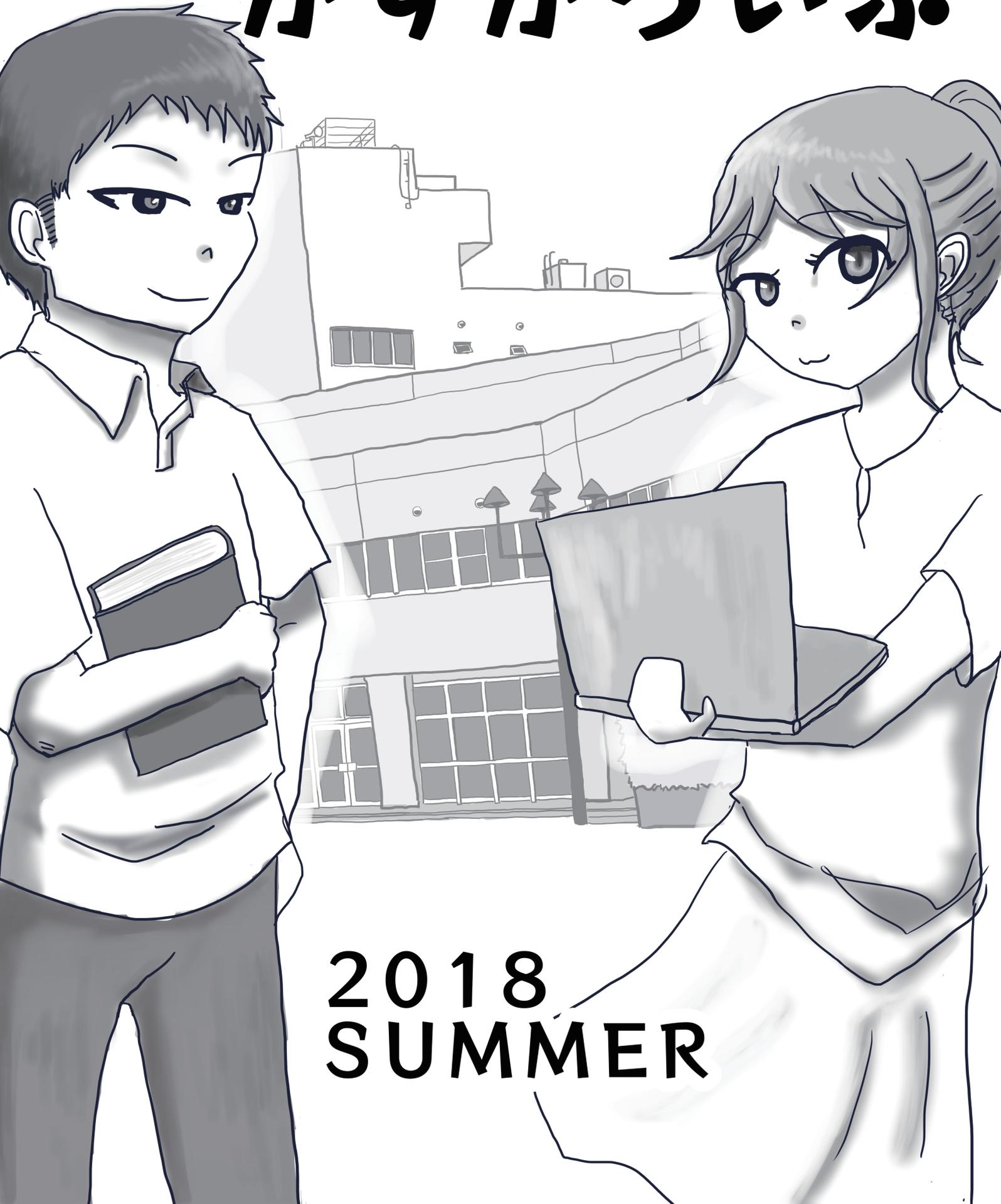


# かすがらいふ。



2018  
SUMMER

## はじめに

ようこそ筑波大学へ！そして、春日エリアに興味をもってくださりありがとうございます。

春日エリアはその立地ゆえに、天王台にある他の多くの学類から偏見をもたれがちです。

知識情報・図書館学類、情報メディア創成学類だからこそ学べるものがたくさんあります。この2学類は特に、名前から受ける印象以上に様々なことが学べる学類です。説明会やこの冊子からその一端を感じていただければ幸いです。

受験生の皆様が自分にあった大学に巡り合い、その思いが実りますように ...

2018 年度かすがらいふ編集長

### 略称について

☆知識情報・図書館学類は

\* klis( けーりす Knowledge and Library Sciences )

\* 知識 \* 図情 \* 知情

と呼ばれることがあります。

☆情報メディア創成学類は

\* mast( ますと Media Arts, Science and Technology )

\* メ創 \* 創成

と呼ばれることがあります。

当冊子では klis,mast の2つの表記が用いられています。ご注意ください。

# 目次

## 1. 学類紹介

知識情報・図書館学類 p.4  
情報メディア創成学類 p.5

## 2. 授業紹介

知識情報・図書館学類 p.6  
情報メディア創成学類 p.8

## 3. 主専攻紹介

知識科学主専攻 p.10  
知識情報システム主専攻 p.11  
情報資源経営主専攻 p.12

## 4. ゼミ紹介

p.13

## 5. 合格体験記

前期入試 (科目別) p.14  
後期入試 (小論文) p.20  
AC 入試 p.22  
推薦入試 p.24

## 6. 生活体験記

学生宿舍 p.26  
アパート p.28  
グローバルヴィレッジ p.30  
自宅通学 p.31

## 7. サークル紹介

p.32

## 8. 学内行事紹介

p.34

## 9. 構内地図

# 1. 学類紹介

春日エリアでは2つの学類が講義を行っています。その2学類、知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類それぞれの学類長である歳森先生と河辺先生に各学類を紹介していただきました!!

## 知識情報・図書館学類

学類長 歳森 敦

先日、Amazon ビデオで「アイアンクラッド」という B 級映画をストリーミングで見ました。その日までタイトルも知らなかったこの映画を見たのは、「視聴履歴に基づくお勧め」に十字軍の騎士風のおじさんが俯き加減に立っているジャケットが表示され、それに惹かれたからです。現在では映画を楽しむにも、映画館で見る、テレビ放送で見る、ケーブルテレビで見る、レンタルビデオ店で借りる、動画配信サービスで見るなど様々な見方が選択できるようになりました。映像メディアの視聴環境は多様になっているし、環境そのものが変化している最中であることに気がつきます。例えば、近所のレンタルビデオ店はビデオコーナーの面積を減らしています。数年したら実店舗で DVD や Blu-ray のメディアを貸し出すという業態は無くなっているかもしれません。

こうした変化を生みだしている原動力は、インターネットに代表される情報通信技術だと思います。情報学群では情報技術や情報そのものを専門分野として学びますが、知識情報・図書館学類はその中でも、社会や人間の要素を中心に学びます。情報によって人や社会をどう変えるか、情報をどう使うか、そのための情報技術はどうあるべきか、そうした見識を持った人材を養成するための学類です。冒頭の映画の話に戻しましょう。オンラインショップでは購買履歴や閲覧履歴をデータとして膨大な商品の中からその人に合ったものを推薦します。このような技術を情報推薦や情報フィルタリングと呼びますが、知識情報・図書館学類ではそうした技術そのものを学びます。さらに、そのデータ収集に潜むプライバシーの問題や過度のフィルタリングによって自身が「望む」情報しか得られなくなるといった問題についても併せて学ぶことができます。また、新しいメディアが登場した時に、どんな人が使うのか、どのように使うのか、映像メディアの視聴という行為はどう変質するのかという問題も我々の学類のテーマでしょう。私がこの映画を見たのは、動画配信というサービスでこのコンテンツが提供されていたからで、新しいサービスが映像メディアの視聴可能性を大きく広げ、私たちがその恩恵を享受していることがよくわかります。このような、映像メディアに関するコンテンツの利活用に関する授業もあります。

知識情報・図書館学類のキャッチコピーに文理融合というキーワードをよく使います。受験生のみなさんには、文系の学生でも理系の学生でも入学できるというメッセージだと表面的に理解されがちです。確かにその理解自体は間違いではありません。でも説明してきたような例を考えると、文理融合とは「どちらでも良い」という放漫なものではなく、「両方を学ぶ」という貪欲なものにならざるを得ません。そのため文系出身であっても、数学・統計・プログラミングは必修で学ばなければなりませんし、理系出身であっても、哲学や法学の基礎を学ぶようにカリキュラムを作っています。入学を志望される方には、分野を限定しない学びに対して、強い意欲を持っていただきたいと願っています。

図書館はどうしたの? と戸惑っている人が居られるかもしれません。図書館はもちろん重要な主題であり、日本の図書館の将来を支える専門職を輩出することは、学類の目標の一部です。ただし、知識情報・図書館学類における司書教育は学類の専門教育課程の一部として、色々な専門科目の中で分散して行われています。司書として身につけるべき内容より、知識情報・図書館学類の卒業生として身につけるべき内容や専門性の方が遙かに大きくて深いのです。逆に言えば、それだけの広い視野と学識、確かな技術力を身につけないと、日本の図書館の将来はおろか、就職先の図書館の未来ですら変革していくことはできないでしょう。欲張りな学生求む。

## 情報メディア創成学類

学類長 河辺 徹

情報メディア創成学類が創設されたのは 2007 年です。それから現在までの 10 年余りの間に、スマートフォンやタブレットを始めとする各種 IT 機器やインターネット、無線ネットワークなどが爆発的に普及し、それに伴って SNS、動画生中継サービス、ネットゲームなど各種のネットワークサービスが急成長を遂げました。「デジタルネイティブ」世代の皆さんにとっては、これらのことは子供のころから当たり前に慣れ親しんだものだと思います。しかし IT を基盤とした画像、映像、音響処理といった分野とそのサービスは現在も凄まじい勢いで進歩しており、IoT (Internet of Things)、AI (Artificial Intelligence)、サイバーセキュリティ、ビッグデータなど新しいパラダイムも生まれています。これらのパラダイムも取り込んで、サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させることで、現在未解決の様々な社会的課題を克服し、文化的、経済的にも発展していく人間中心の未来社会である Society 5.0 の実現が今後の重要課題となっています。Society 5.0 の実現には、IT を基盤とした新しいパラダイムに関連する高度な技術や専門的知識を身につけた、次世代の ICT (Information and Communication Technology) 人材の活躍が不可欠です。

情報メディア創成学類では、そういった歴史的な社会背景も踏まえ、ネットワーク情報社会に不可欠な基盤的技術分野と Web・映像・音楽などの多種多様な情報をコンテンツとして扱い流通させるための技術分野において、革新的技術や科学的理論を創造的に生み出すことができる人材養成のための教育を行ってきました。普遍的で基礎的な教育内容の上に、時代の要請に応じた最先端の知識や技術に関する専門的な内容を組み上げ、社会の要請に応じて柔軟に変革していくカリキュラムを提供しています。第一線で活躍するクリエイターやプロデューサーをお招きしての講義、実践力を養成するために産学共同で実施する実習科目など、特色ある授業科目も併せて開設することで、幅広く様々なことが学べるカリキュラムにもなっています。また、学類として、実社会に役立つシステムやコンテンツを自ら創造/設計できる才能の養成も重視しており、授業以外の学生の自主的な活動も盛んで、プログラミングやアプリ開発などの各種コンテストに数多く参加し入賞したり、学会で成果発表を行ったりもしています。(毎年、受賞・表彰は約 10 件程度、学会発表は 20 件以上。) 1 学年 50 名の比較的小さな学類ながら、幅広いバックグラウンドを持つ 30 名の専任教員が在籍しているため、学生一人ひとりに対して、授業指導だけでなく、こういった学生の自主活動も含め、きめ細やかな対応が可能になっています。

そこで、今回の大学説明会をはじめとして、今後の様々な機会に応じて、ぜひ本学類の教員や学生に積極的に学類のことを聞いてみて下さい。学類のアイデンティティーを最も体現しているのは学生ですから、学類を知るためには、学生から話を聞くことがもっとも手っ取り早いかもしれません。その意味では、この『かすがらいふ』は情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類の学生が毎年企画して作っているもので、作った学生たちの想いや個性などにもじみ出ているはずですので、内容だけでなく、ぜひそれらも読み取って両学類のアイデンティティーについて大いに参考にしてもらえればと思います。

最後に、これからの人間中心の未来社会 Society 5.0 の実現のための技術や理論を生み出すために、我々、情報メディア創成学類の学生および教員と共に、学び、考え、悩んで切磋琢磨し成長していきたいという夢と希望と意欲にあふれる多くの皆さんの登場を心よりお待ちしております。

# 2. 授業紹介

どちらの学類でも特徴的な授業が行われています。その一部を実際に受講した学生に紹介してもらいました!!  
興味のある講義があるかも...? ここでは 2018 年度の知識情報・図書館学類の講義を紹介します!!

## 知識情報・図書館学類

### 知識情報概論

皆さん、知識と聞いたら何を思い浮かべるでしょう。おそらく漠然としていて言葉にはできないと思います。知識は誰かの力がないとその存在を知ることができないからです。確かに自分の中には蓄積されていますが、他者が問いかげなどの動作をしない限り、私たちは確認することができないのです。また、知識の表現方法は様々です。例えばこの『かすがらいふ』の冊子の中にも、様々な知識になりうる情報が盛り込まれています。

... 哲学みたいで難しいですね。これは、知識情報概論で扱う内容のほんの一部です。また、知識情報・図書館学類の必修科目なので、この授業を避けることはできません。最初のうちは全て暗号のように聞こえますが、一度理解すると徐々に頭がすっきりしていき、知れば知るほど奥が深く、全てにおいてつながっているということに気づかされるでしょう。また、授業中に炸裂する先生の素晴らしい絵もこの授業の見どころです。

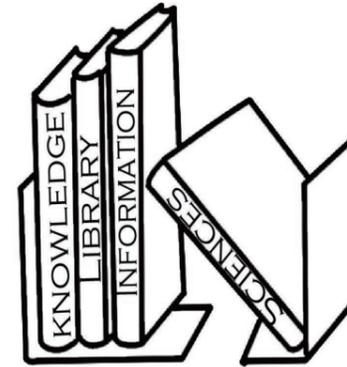


### 図書館概論

選択科目の一つです。

図書館の過去、現在、未来を軸に、図書館の情報へのアクセスをすべての人に保証することとは何かを全 10 回の授業で学ぶことが出来ます。図書館史や図書館に関する法制度、社会問題と図書館の関係など、様々な視点から図書館について学ぶことで、図書館の本質についてディープに学ぶことが出来ます。

授業担当の吉田右子教授は北米・ヨーロッパ諸国の図書館研究の第一人者で、日本のみならず、諸外国における図書館の現場を探訪された経験から、日本と欧米諸国の図書館の共通点、相違点について教えていただけます。また授業の中で、理解を深めるための映像・web 資料が提示され、それを元にレポート(全 2 回)を書くことで、自身の図書館についての知見を深めることができます。全て受講し終わる頃には、社会において図書館が果たす役割や、今後の図書館の在り方を考える上での基本的視座を得ることができているはずです。



### プログラミング演習 I/II

通称プロ演。「Ruby」という、わりとわかりやすいと言われているプログラミング言語を、超基礎的なところから学ぶことが出来る授業です。

プログラミングは初めてという人も klis には多くいるので、文系理系問わず得意不得意が分かれ始める授業でもあります。プロ演IIになるとさらに発展的な内容になるので、プロ演Iでしっかり基礎を学びましょう。不得意だなと感じてしまったら、友達や TA( Teaching Assistant ), KLC( 春日ラーニングcommons )のチューターや先生に積極的に質問することが大事です。わからなかったら、自分だけで解決しようとせず、たくさんの人に助けを求めらうといいでしょう。プロ演IIに入る頃には、プログラミング大好き人間も現れ始めるので、そういう人に教えてもらうのもいいでしょう。

```
1 #encoding: Shift_JIS
2 ファイルエンコーディングを変更
3
4 print("キーを入力してください")
5 key = gets.chomp
6 print("値を入力してください")
7 value = gets.chomp
8
9 word.store(key,value)
10 print("ハッシュのサイズ=", word.size, "\n")
11 print("キーを入力してください")
12 key = gets.chomp
13 print("値を入力してください")
14 value = gets.chomp
15 word.store(key,value)
16 print("ハッシュのサイズ=", word.size, "\n")
17
18 word.each{|key, value|
19   print(key, ":", value, "\n")
20 }
```

### 情報社会と法制度 (情報学群共通科目)

「情報社会と法制度」は、簡潔にいうと、「法学」全般について学べる概論(その分野全体について俯瞰的に教えてくれる講義のこと)形式の授業です。法律について、分野ごと(憲法、民法、刑法など)に学ぶことが出来ます。またそれぞれの分野の最後には、法学の観点から見た「情報社会」についての解説も行われます。最終回前後には、何人かで提示された問題についての意見をまとめるグループワークもあります。

この科目の後には、2年生秋に「知的財産概論」という講義で「知的財産」(著作権などのこと)について学ぶ以外には、法律に触れる機会が少なく、法学全体について学ぶことが出来る授業はありません。

大学で研究を行いたいという人も、卒業後就職したいという人も、起業して自分で会社を立ち上げたいという人も、将来何をしたいにしても法律全般の知識をつけておくことは大切です。法律について幅広い知識をつけるための第一歩としてこの授業を、受けておくことをオススメします。



## 2. 授業紹介

どちらの学類でも特徴的な授業が行われています。その一部を実際に受講した学生に紹介してもらいました！興味のある講義があるかも...? ここでは 2018 年度の情報メディア創成学類の講義を紹介します!!

### 情報メディア創成学類

#### コンテンツ表現演習 -1

「立体造形の制作と展示」と「グラフィック表現」について、それぞれ 5 回ずつの実習を主にした授業により、手で作る立体表現とコンピュータで作る平面表現という 2 方向から造形による表現について学ぶことができます。立体造形ではグループに分かれ、与えられたテーマに沿って自由に作品を制作します。最終日には春日エリア内に作品を展示して、プレゼン形式で発表を行います。

グラフィック表現では画像処理ソフトである Illustrator や Photoshop を使いながら平面表現について学びます。線の引き方や画像の切り抜き方のような基礎的なことから教えてくれるため、初心者でも心配は無用です。そして最終的にはポスターなどの作品を作ることができるほどの技術を身につけることができます。

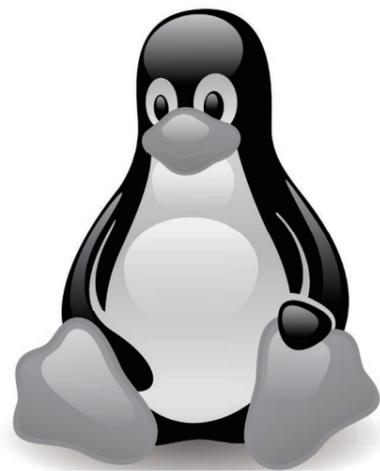


#### コンピュータリテラシ

コンピュータリテラシでは、始めにインターネットの基本的な使い方などを学びます。その後、ホームページの作り方や、Linux という OS の使い方について学びます。Linux では、初心者でもついていけるように基礎から学びます。

授業は、始めに一通り説明をしてもらい、その後は、自分で作業を進めていくという形式です。分からないところは聞けば教えてくれるので、初心者でも安心です。Linux はレポートを書く際によく利用するので、この授業はとても役に立ちます。

また、コンピュータリテラシ実習というものもあり、座学と実習の両面から学ぶことができます。

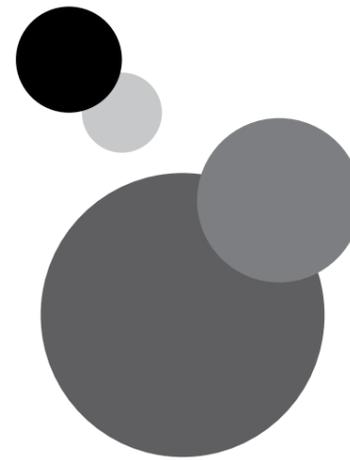


#### 情報メディア概論

情報メディア概論は mast の教員によるオムニバス形式 (毎週話す人が変わる) の授業です。今後の授業の導入、mast でどういった研究が行われているかを実際にその研究に携わっている教員から直接話を聞くことができます。

mast には情報メディア創成主専攻しかありません。なので各々で自分が何の分野に興味がありどんな研究をしていきたいかを考える必要があります。そのきっかけになり得る授業になっています。大学に入ったばかりだとやりたいことが決まっていなくても多いかと思いますが、しかしこの授業の中で面白いと思った内容を掘り下げていくことで多くの発見があるはずです。

また各分野での繋がりがあることも少なくないので毎回の授業内容はしっかり聞いてメモを取っておくと後々役に立つかもしれません。

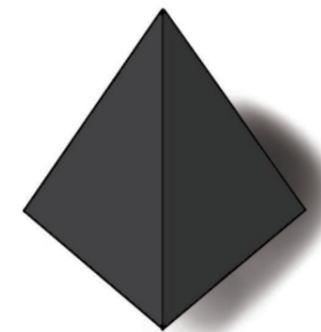


#### コンテンツ応用論

現在落合陽一先生が担当されている授業で、コンテンツ制作に携わり第一線で活躍されているクリエイター、プロデューサー、エンジニアのような多種多様なゲストの方々を学外から講師としてお招きし、最先端の創作活動やビジネスの動向等について、前半は講義、後半は落合先生と講師の対談といった形で行われていく講義です。1 回の授業につき 1 人の講師に来て頂く、オムニバス形式となっています。

また、この講義の大きな特徴はハッシュタグをつけて Twitter で講義に関連した内容、感想などを 30 ツイートすることでその回の出席となることです。Twitter をやっていない場合でも別個レポートを提出することで出席となります。

毎年講師陣は変わりますが、映像クリエイター、新しい製品を開発している方、自分の描く独自の世界観を表現しようというアーティストの方々による刺激的な講義、対談が魅力的な授業です。



# 3. 主専攻紹介

知識情報・図書館学類は3つの主専攻があり、3年生になるとそれぞれ主専攻を選択します。

一方、情報メディア創成学類には主専攻が1つしかありません。ここでは知識情報・図書館学類の主専攻を紹介します!!

## 知識科学主専攻

### 知識科学主専攻ってどんなところ?

知識科学主専攻は「知識と人間」に着目した研究を取り扱っています。といっても、具体的にはなにも想像がつかないでしょう。情報資源経営主専攻には「図書館」、知識情報システム主専攻には「情報システム」といった分かりやすいシンボルがありますが、知識科学主専攻は研究対象や研究範囲がぼんやりしている印象があると思います。それは逆を言うと「なんでもあり」の主専攻であるということです。人間が生きていくうえで知識との関わりは不可欠です。あなたが「知りたい」、「研究したい」と思ったことは突き詰めればすべて知識科学主専攻の研究範囲に入ってしまうと言えます。

### 過去の卒業研究

ここでは知識科学主専攻のイメージをつかんでいただくため、いくつか卒業研究のタイトルを紹介します。

- ・大学生のスマホの利用状況と学習意欲への影響
- ・バトル漫画実写化の比較
- ・性的マイノリティが形成する家族観
- ・聴衆が大喝采する講演の予測
- ・ラーメン二郎の流行とその定着についての考察

個性的な研究にあふれていますね。具体的な研究内容は学類 Web ページの卒業研究抄録をご参考ください。

([https://klis.tsukuba.ac.jp/thesis\\_2017.html](https://klis.tsukuba.ac.jp/thesis_2017.html))

### 知識科学主専攻実習

知識科学主専攻実習は主専攻の先生方がオムニバス形式で講義を行う実践型授業です。その内容は、普通の講義とは一味も二味も違います。より良い発想法を身につけるため、3時間延々とブレインストーミングを行ったり、架空のイベントの実行計画書を練ったり、仮の研究テーマを設定し、その研究のためのアンケート用紙を制作したりします。どの回も大抵グループワークで、授業終了までに課題を提出する時間配分の力が試されます。そのため、他の主専攻実習より負担が重いと言われることもありますが、これらは卒業研究だけではなく、卒業後、就職した際にも使える知識です。実用的な学びと手厚い指導が知識科学主専攻実習の魅力だと私は思っています。

### 専門科目一言紹介

知識科学主専攻の専門科目を、一言にまとめてご紹介します。

- ・知識論：知識とは何か、様々な認識の仕方を学びます。専門基礎科目「哲学」の次段階。
- ・情報評価：研究者のコミュニティでどのように各研究の評価が為されるのか学びます。
- ・テクニカルコミュニケーション：取扱説明書の作り方を学びます。実習に近い講義形式。
- ・情報検索システム：Google に代表される情報検索システムの仕組みを学びます。

## 知識情報システム主専攻

この主専攻の強みはなんとといっても、様々なプログラミング言語に触れられることです。3年次までに、必修科目のプログラミング演習で Ruby( 来年度から1年生は Python )、知識情報演習 III で Python を使ったプログラミングを学びます。知識情報システム主専攻ではさらに、ソフトウェア工学という科目で C 言語や C++ でプログラムを書き、ヒューマンインタフェースという科目で情報科学類の学生と一緒に iMac で Processing ( Java を易しくし、グラフィック機能に特化させたもの) を使います。プログラミングの色々な面に触れたいという人におすすめの主専攻です。上記の説明と主専攻名だけを聞くと、知識情報システム主専攻はプログラミングが中心の、3つの主専攻の中で一番理系寄りな主専攻のようですが、実はそうでもありません! アーカイブズや知識資源の利用から、メディアアート、マークアップ言語やデジタルライブラリなど幅広い科目が主専攻の専門科目として用意されています。なので、プログラミングが苦手な人や、文系の人も安心して下さいね(筆者もプログラミングが苦手な文系です)。

ここまでの説明と下記の一部授業の紹介を読んで、知識情報システム主専攻に興味をひかれた方もそうでない方も、知識情報・図書館学類の教員紹介を見て、どんな分野の研究をしている先生がどの主専攻にいるのか、ぜひチェックしてみてください! 知識情報・図書館学類 教員紹介⇒ <https://klis.tsukuba.ac.jp/faculty.html>

### Web プログラミング

Web の基本原理についての説明から始まり、情報のやり取りや、人と人、組織と人などのコミュニケーション機能を実現するためのサーバ側プログラミングの基本原理と現実、セキュリティ問題などについて解説されます。授業内容には実際に Web の機構を用いて情報提供できるようなプログラムを作成する実習が含まれており、CGI ( プログラム応答のために定められた規格) に基づいたプログラミング課題のレポートが2回程出題されます。

### アーカイブズの構築

アーカイブズ資料 ( 古文書や公文書などの記録資料) や国内の古文書館・公文書館といったアーカイブズ施設の意義と機能、歴史と現在について学ぶ科目です。この授業の中でも特に重視されるのが、大災害とアーカイブズをめぐる問題です。2018 年度の授業では東日本大震災や常総市を中心として起こった水害の際の被災資料の救出・保全活動について紹介されました。また、授業の最終回では普段は入れない、図書館情報学図書館の貴重書庫で保管されている資料についても解説されます。

### 知識情報システム実習

俗に言う主専攻実習のことで、知識情報システムの構築にかかわる基本的な技術を身につけるために行われる必修科目です。春学期は3~4人のグループに分かれて、データベースを利用したシステムを構築します。グループ分けの後も各グループの作業だけでなく、担当の先生方によってオムニバス形式で知識情報システムに関連するテーマのミニ講義が行われます。最終日は構築したシステムのプレゼンテーションをし、1番魅力的だと思ったグループに投票して優勝を決めます。秋学期は「ディープラーニング」、「アーカイブズ」、「定理証明」の3つのテーマの中から好きなものを選び、それぞれのテーマごとに担当教員の指導の下課題を進めていきます。

# 3. 主専攻紹介

1番「図書館」感あふれる主専攻がこちらになります。でも、図書館好きはここ ... とも限らないのです。

## 情報資源経営主専攻

情報資源経営主専攻は、「情報」や「資源」をどのように整理し、蓄積し、活用し、そして、それらを社会の中でどのようなかたちで「経営」していくのかを学びます。以前は、「情報経営・図書館主専攻」という名称でした。その名称からも分かる通り、知識情報・図書館学類に3つある主専攻のうち、最も図書館に近い主専攻とも考えることができます。

「情報」や「資源」の整理、蓄積という観点からは、分類法について学びます。図書館の本には大抵ついているアルファベットや数字はその分類法に基づいてそれぞれの本につけられたもので、みなさんが本を探すときに役立つだけでなく、秩序立てて整理するときにも活用されています。また、目録法を学び、目的の資料を探すときの手がかりとなる書名や著者名などをどのような規則に従って記録しておけばよいか、なども勉強します。これは、目録カードや図書館に設置されている蔵書検索システムなどを作成する際に必要となる知識です。さらに、図書館資料にとどまらず、日本の古い資料、いわゆる古文書をどのように扱い、目録を取るとよいかといったことを学ぶ授業や歴史的な資料や災害の記録をどのように保存、活用していくと良いのかといったアーカイブズの授業などもあります。このように、図書館やその周辺の資料について、利用されることや、保存し後世で活用されることを念頭により実践的な授業を受けることができます。

「経営」という観点からは、図書館のサービスや社会とのつながりに関すること、著作権を含む法制度などについて学びます。図書館サービスは、レファレンスサービス、複写サービス、児童サービス、ヤングアダルトサービス ... と、サービスと一言に言っても行う業務サービス)や対象を絞ったサービスなど意味も様々、やることも様々です。レファレンスサービスというのは、利用者の方からの質問にお応えするサービスですが、参考図書を使い、時には外部の専門機関を案内し(レフェラルサービス)、これ1つでも、とても奥が深いものです。また、対象を絞ったサービスとして、児童サービスやヤングアダルトサービスを先述しましたが、それぞれの個人にあった本を案内したり、学校や自治体と協力しながらサービスを行ったり、こちらもやはり、掘れば掘るほど興味深いものです。また、最近では図書館の運営を民間の事業者へ委託する「指定管理者制度」なども注目されており、それを含めて図書館の運営がどのように行われているのか、地域の書店や出版社との関わり合いはどのような構図をとっているのかなども「経営」の観点から学ばれています。

さて、図書館を全面に押し出して情報資源経営主専攻についてお話してきましたが、図書館にこだわることなく、情報や資源を「社会」という面に注目して見ていくのが、この情報資源主専攻です。まとめると、あふれかえるほどの情報や資源を存分に活用できるような環境づくりに関わることを学びます。このため、図書館に関わることを学びたいという方だけではなく、著作権などの今日の情報社会に関わる法制度について考えたい方、情報の側面から社会や教育を考えたい方なども学びたいことを学べる主専攻です。

# 4. ゼミ紹介

大学生生活の終盤かつ晴れ舞台!!  
ゼミは教員の方々の数だけある ... とは言えませんがそれにほぼ等しいだけです。

klis 及び mast の学生は、4年生で卒業研究に取り組みないと卒業できません。3年生までの間には数十人から数百人を対象とした講義を受けて必要な知識を身に付けます。そして klis は3年生の11月頃に、mast は3年生の12月頃に教員の研究室に配属され、卒業研究を行うために少人数による議論や個別指導が行われます。これがいわゆる「ゼミ」です。

卒業研究とゼミについて、私が所属している佐藤研究室を例に説明します。卒業研究のテーマは研究室によりますが、指導教員が指導可能なものであればなんでも選べます。klis であれば複数の主専攻から学生が集まる研究室も少なくありません。ここ数年の佐藤研究室は知識情報システム主専攻の学生と知識科学主専攻の学生が在籍しています。そのため、扱うテーマも自ずと幅広いものになります。最近では、立ち読み時に着目する要素の研究、ユーザーのレベルに合わせたレシピ作成システム、ディープラーニングの学習経過可視化など様々なテーマを扱っています。これらのテーマについて学生は卒業に向けて研究を進めていくわけです。

では、具体的にどのような流れで1年を過ごすか説明します。まず、最初に興味のあるテーマの先行研究や関連研究を読み、対象分野の知識を身につけます。佐藤研究室では、指定された学会の論文を週数本読んできて要点をまとめて発表するという形式でした。その後、研究テーマを決定してからは各々の進捗報告が主になります。指導教員からアドバイスを受けたり、ゼミ生同士で議論したりしています。そしてこれらの集大成として、卒業論文を執筆し最終発表を行うことになります。

また他の研究室では、輪読(1冊の専門書について担当する部分を決め、その部分の内容についてまとめて発表)をしたり、ゼミ生の興味のある方向について全員で話し合い参考文献を提供しあったりとゼミの内容も少し異なります。個人ゼミが中心か集団ゼミが中心かでも違いはありますが、頻度は週に1回程度のところが多いようです。また、個人ゼミがメインの研究室では随時教員と調整をしてゼミを行う、というところもあるようです。

研究室によって異なるため、一概には言えませんが、佐藤研究室はプリンターや研究に関する書籍を所有しており、各自に机が与えられています。一方、学生が作業する場所がない研究室もありますので、そちらに所属する学生は図書館や自宅で作業を行います。卒業研究やゼミは大変なものに思われるかもしれませんが、指導教員やゼミ生と議論をしたり、研究テーマについて深い知識を身に付けたりするのはとても面白いものです。この記事を読んでいる皆さんが、研究室を訪れる時を心待ちにしております。

# 5. 合格体験記

合格した先輩はどうやって勉強していたのか? 気になりますよね。ここでは科目・入試ごとに対策をご紹介します。これであなかも klis or mast に入学できる ...!? ここでは「数学」、「英語」をご紹介します。

## 数学 (klis)

筑波大学の中でも、知識情報・図書館学類の数学は比較的高得点をとりやすいです。問題数に対して十分に考える時間があります。それ故に、所謂数学力と言われている類いの能力を要求されます。問題が解けるか否かではなく、数学的思考が出来ているか否か。それは数学の問題を解いているだけ、過去問を解いているだけでは中々身につかないものです。私は浪人期間にそれを思い知りました。何故落ちたのか、何故得点が取れなかったのかを理解した、と言っていいかもしれません。

問題を解く時に、単に答えだけを見てはいけない、というのはもはや当然のことと思いますが、導き方も、何故その導き方をするのか、というところまできちんと『理解』する必要があります。「何故微分するのか」、「何故相加平均相乗平均の関係を使うのか」、そういった部分の『何故』まで理解するように勉強すれば、応用的な使い方もしやすくなりますし、求めるものに対して解き方を単に暗記することも少なくなります。その上で記述すれば、部分点も多く獲得できるようになるでしょうし、問題に対して様々なアプローチをすることができるようになります。

また、公式は『暗記』するべきではありません。公式は成り立ちを理解し、実際に導くことで定着率も違いましたし、応用もしやすくなりました。私が特に顕著に感じたのは等比数列の和の公式です。しばしば公式を覚えさせられますが、私は使う時に毎回公式を導くところから始めていました。結果として、所謂『公式』を覚えて使うことはありませんでした。数学は公式を覚えて解き方を覚えて当てはめて解く、などというものではありません。これを理解したときから、私の数学での得点は大きく伸び始めました。

## 数学 (mast)

まず第一に、mast の前期試験では数学と英語が 800 点中 400 点(センター試験をあわせれば 1700 点中 600 点)と非常に大きなウェイトを占めています。筑波大の数学は基本的な問題が多く平均点も高めなので、難しい問題を解けるようにすることより、得点するべき問題を見極め、間違えずに解くことが大切です。難しめの問題に時間をかけすぎるとは簡単でとりこぼしてはいけない問題を落とすことにつながります。9月などセンター試験対策で忙しくなる前の早めの時期に最新の過去問をやり、問題の雰囲気を知ってから応用問題の演習に取り掛かることがおすすめです。

数学の勉強ではチャート式などの網羅型問題集をやることが多いと思います。時間に余裕があるのであればすべてを完璧にできる網羅型問題集はいいと思います。しかし時間に余裕のない人は問題数を絞ってある問題集を繰り返しかし解くことがおすすめです。網羅型問題集には受験ではあまり出ないような問題や出ても捨てるべき問題が含まれているからです。また、過去問演習はとても大切なので、9・10月、センター後は何回も解くことをお勧めします。過去問をやるとよくあるタイプの問題になれることができますし、自分の実力を知ることができます。得点を記録しておけば自分の成長がわかり、スランプの時の自信になるでしょう。過去問はできれば添削してもらいたいでしょう。自分ではしっかりと解答をかけたつもりでも思わぬところで減点される可能性があります。受験が近づくほどに不安になってくると思いますが、体調に気を付けて、自分を信じて頑張ってください。来年皆さんと会えることを楽しみにしています。

## 英語

「大学受験における英語」と言うのは、「それまで培ってきた英語の集大成のようなもの」、というのが私の持論です。中学、高校の英語は積み重ねてできています。そしてその積み上げられているべき知識を複雑に絡み合わせて出題されるのが大学入試における英語になるわけです。

私は現役時代にも筑波大学を志願し、落ちました。ここに入れたのは一浪してからです。現役の時に失敗した理由は英語だけとは言えませんが、こと英語において「足りなかった」と今だから分かるものは、「語彙力」と「文構造解析力」です。では文章を書く能力はあったのか? いいえ違います。文構造をとれないのに、正しい文を書くことなど出来ません。私の思う『これまでの積み重ね』、というのはそういうことです。ある能力を土台として、次の能力を養っていくのです。筑波大学の試験への対策を、私は大問3以外特にしませんでした。必要なのは速読、精読、要約など、長文を読む上で基礎的なことだと思ったからです。もちろん長文を疎かにしたわけではありません。『筑波大学への』対策をしなかったのです。逆に言えば、おおよそ長文の問題が解ける、という人は別段恐れる必要は無いです。自信を持って解いてください。しかし、これが大問3だけは話が変わります。傾向が変化してきているからです。過去問を見れば分かるかと思いますが、私の時は特に顕著でした。私の友人の多くも「傾向の変化に悩まされた」と言っています。しかし、私は余裕を持って回答する事が出来ました。ピンポイントの対策ではなく、広い視野を持った対策をしたからです。正しい文を書くこと以上に、『自分の意見』を書くことをこれからは要求されると思います。様々な意見に日頃から触れておく事が、受験において役に立ちました。

英語を伸ばすにはまず確実な単語力が必要です。「なにを当たり前のことを」と思うかもしれませんが、点が取れない方には意外とこれができていない場合が多いです。英単語を即座に日本語にできなければ確実な単語力とは言えません。何度も反復練習を重ねることが重要です。「単語帳はなにがいいのか」気になる方もいると思いますがそこは人それぞれだと思います。僕はターゲット1900でやりましたが他の似たレベルの単語帳でも問題なくできるはず。重要なのはどれだけ身に付けるかなので自分が気に入ったものを使えばいいと思います。

単語力がついたらあとは英文慣れをすることが大事です。長文の問題をたくさん解いて慣れてください。その過程で単語帳になくて知らない単語や熟語、わかっていなかった文法などが見つかると思います。そうしたらそれらを復習して身につけてください。たとえできなくても本番にできればなんにも問題ないので焦らず丁寧にやってください。

情報メディア創成学類の場合は2次試験は英数しかないので私立受験を考慮しなければかなり時間が割けます。過去問が全部解ければ確実に受かるのでセンターが安定した後やセンター後には力を入れてやったほうがいいと思います。情報メディア創成学類は合計1200点前後が最低点となるので2次で6~7割解けることが目安となります。英数ともに基本的にはそこまで難しくないのでしっかりと勉強すれば大丈夫です。自力を信じて頑張ってください。来年の春にこの地で出会えることを期待しています。

# 5. 合格体験記

合格した先輩はどうやって勉強していたのか? 気になりますよね。ここでは科目・入試ごとに対策をご紹介します。これであなたも klis or mast に入学できる ...!? ここでは「物理」、「化学」、「生物」、「地学」をご紹介します。

## 物理

物理は、物事の本質を見極める教科です。力学ならば、この場面ではどのような法則が働いていてどのような結果になるのか、波ならば、どのような性質によって結果が導かれるかなど、基本的な法則や性質などがとても重要になってきます。私の高校では、「公式の導出」と言って、物理を学ぶ上で出てくる公式をイチから導出し、ノートにまとめていました。これをやることによって、公式を暗記するだけでなく、その公式が導かれるまでの過程を理解することによってより本質を理解することができるようになります。今これを読んでいて、物理がよくわからない、できないと思っている人は、試しに「公式の導出」ノートを作ってみてはどうでしょうか。筑波大学入試の対策についてお話しします。筑波大学入試では3つの大問が出され、大問1は力学、大問2は電磁気で固定されていると考えても良いでしょう。しかし、ベースは力学や電磁気でも他の分野との融合問題になることがあるので注意が必要です。大問3は熱力学、波動、原子の中から1~2つ出て来ます。筑波大学では原子を出題することがあり、他大学と比べると対策が少し大変かもしれません。また、2017年度では原子、2018年度では前半が原子、後半が熱力学と、連続で原子が出題されました。(私は2年連続で出ることにはないと侮っていました...) また、筑波大学入試では、途中計算や考えの過程を記述する欄と答えを記述する欄で分かれています。答えがわからなくても、考え方など思いついたことを何かしら書くことによって加点され、合格につながるかもしれません。最後まで諦めずに手を動かすことは大事ですね。

使用した問題集:『セミナー物理』(第一学習社)、重要問題集(数研出版)

## 生物

センター試験では知識量で勝負することはできません、2次試験は思考力も鍛える必要があります。

最初にセンター試験と2次試験の過去問を最低2年分、解答を見ながら良いので解くことを勧めます。その過去問を解いたイメージを持ちながら教科書を読むなりしてインプットします。インプットするときのコツは自分が出題者だとしたら、この分野についてどう出題するか考えながらすることです。知識を蓄える方法でお勧めなのは、人に解説するまたは解説するように声に出すことです。例えば、朝起きたときでも入浴している時でも良いので、「フィラメントの大きさの順番は?」「C3植物・C4植物・CAM植物の違いは?」「近いものと遠いものを見るとき毛様筋とチン小帯はどうなっている?」「ハーディー・ワインベルグの法則が成立する5つの条件は?」など自分で問題設定をして、答えられなければ確認して自分の言葉で説明するといったことです。また、生物はとにかく図を書くことが重要です。葉緑体、脂質二重層、電子伝達系で起こっていること、ニューロンなど描いてインプットすることがお勧めです。筑波大学の生物は生態系や進化の分野も出題されるので、1つの分野に偏らないように勉強することをお勧めします。思考力を高める方法は、過去問や自分の使っている問題集などの問題の条件を変えて解きなおすことをお勧めします。同じ問題集を繰り返し解いているとどうしても問題とその答えを覚えがちになるので、この方法で問題に対する新しいアプローチを試みて柔軟な思考力を手に入れて欲しいです。

最後に、問題文の誤読が生物にありがちなケアレスミスですので、正確に前提条件を捉え、何を求めるべきなのかを見失わないことがポイントです。

## 化学

自分にとって、化学は分量的に60分で解くには多すぎました。そのためとところどころ捨てるつもりで本番に臨みました。その分取れるところで取っていたので今の自分があるのかなあと感じております。出題の分野については、**赤本を見たらよい**と思います。今年度から入試制度が変わるらしく、僕では今まで通りになるのかよくわかりません。赤本をとりあえず**5年分**やって慣れてみましょう。**慣れが大切**です。

僕は最近アルバイトを始めたのですが、品物の名前と金額を覚える作業はとても大変です。また、どんな仕事があるのかわからず、なにより「いらっしやいませ」のアクセントがすっかりこなくて、悩んでいます。しかし、たくさん見て学んで吸収するしかないと思います。

そしてこれは、勉強も同じです。本番で手が震えない自信があり、かつ「あっ、これか」ってなるようであれば、サッカーワールドカップを見てもいいと思います。問題集(僕は数研出版の「**重要問題集**」を使っていました)一通り解いておくべきだと思います。気の持ちようが違います。僕は、重問全くやらずに1月、2月を迎え、「問題集をやっておけば良かった」と焦心しました。やり方としては、**解き、答え合わせをする。思考的ミスなら付箋を貼り、あとで確認できるように**します。原理の理解は2週目や寝る前に意識してやりました。技術的ミスであれば反省を繰り返して、一通りするといいい感じの自分用のテキストになっているのではないのでしょうか。あんまり問題集を持ちすぎず、利き手にシャーペン、もう一方の手で問題集でいいと思います。模試などでミスをしてしまったところはノートにまとめておくといいです。あとで簡単に振り返ることもできますし、心もきつと落ち着きますから。

## 地学

どうやら地学選択は全然ない模様です...

地学選択を予定していたがっかりしたそのキミ!!

キミが入学してこの欄を埋めるのだ!!



# 5. 合格体験記

合格した先輩はどうやって勉強していたのか? 気になりますよね。ここでは科目・入試ごとに対策をご紹介します。これであなかも klis or mast に入学できる ...!? ここでは「倫理」、「地理」、「世界史」、「日本史」をご紹介します。

## 倫理

高校3年生の夏休み前時点で授業にて内容がほとんど終わっていなかったため、夏休みは一通り教科書や資料集、参考書を読み込んだり問題集を解いたりして知識をつけました。参考書は学研教育出版の『蔭山のセンター倫理パワーアップ版』を使っていました。その時期はまだ論述対策ができるほどの知識量がなかったのですが、400字をテンポよく書く方法やポイントの抑え方を掴むために日本史の過去問3,4年分を教科書を見ながら解き添削してもらいました。秋以降はセンター対策を中心に内容を関連・対比させて覚えしました。センター後は、過去問や参考書を眺めたり頭の中で整理する程度でした。できれば先生に添削してもらうのが一番です。奇問は少ないので基本事項を徹底的に理解し、それらを分野を横断して関連づける力があるといいと思います。

2次を倫理で受験できる大学も受験者も少ないのであまり大きな声でお勧めはできませんが、倫理はとても面白い科目です。筑波大学の前期試験の倫理は、例年400字の論述形式で4題出題されています。その多くがセンター対策の知識では太刀打ちできないため、論述に特化した勉強が必要になります。その出題内容は多岐に渡り、カルヴァンと石田梅岩の商業観の比較や、最澄の説く「国宝」の説明等、センター試験より遥かに難易度の高い問題が出題されます。また、様々な思想から満遍なく出題されます。これらの出題内容を事前に想定するのは限りなく不可能に近い為、対策としては教科書の熟読を推奨します。特に、有名な思想家や哲学者については出題頻度が高いので正確な知識を身につけておいてください。現代社会分野は軽視されがちですが稀に出題されている為、目を通しておいて損はないです。教科書を熟読した上で、過去問の演習は絶対に行い、学校の先生等に採点してもらうのが理想的です。

## 地理

前期入試地理の対策は、とにかく過去問! これに尽きます!! 筑波大学の地理の問題は、400字の論述が4題と非常に特徴的です。こんなに書かせる地理の問題を出題する大学は他にはありません。したがって過去問をたくさん解いて慣れるしかないのです... 私は過去問を10年分以上解きました。そして、なんと、本番では過去問にそっくりの問題が出題されたのです! この経験から、私は声を大にして言いたい! 地理受験生は過去問をたくさん解こう!!

でも、具体的にはいつ頃どのように勉強をすればいいの? という疑問がありますよね。私は、過去問を解き始める時期はセンター試験の後でいいと思っています。なぜなら、筑波大の地理の問題は基本的なことしか聞きません。センター試験の地理がちゃんと解けるだけの、地理の基本的な考え方が身につければ問題ないと思います。センター試験後までは、センター対策に集中しましょう!(もちろん、早い段階で問題の形式などは把握しておきましょう!) そしてセンター試験後、過去問を解いてみたら...400字も書けない! 書くことがない!! 聞かれていることに答えるだけでは200字もあれば書いてしまうのです。いかに肉付けするか、どこまで詳しく書くか...これは量をこなして慣れるしかありません! 学校の先生に添削や指導をお願いし、毎日1年分は解くようにしました。最初は時間を気にせずに、400字書くことだけを意識して。慣れてきたら時間も気にして。たくさん先生を頼って。ひたすら過去問に向き合いました。

そして! 結果、本番の得点は8割を超えることができました! 人それぞれ合った勉強法があると思いますが、数少ない地理受験の方の参考になれば幸いです。

## 世界史

筑波大学の世界史は、『5つの指定語句』を基に400字×4題を組み立てるという方式です。聞かれる内容はヨコの歴史よりタテの歴史の方が多い印象があります。また出題範囲は例年、大問の順に「古代⇒中世⇒近代⇒現代」と並んでおり、幅広い範囲から出題されるので、教科書・資料集を隅から隅まで頭に入れておくことが大事です。出題レベルは、教科書の内容がそのまま浮かべば書ける程度です。

まず、筑波大学の世界史を攻略するためには、教科書の内容・流れを徹底して覚える必要があります。稀に例外もありますが、基本的には教科書に載っている単語が出るので、教科書本文をよく読むことが重要です。特に2次試験前には、教科書の始めから終わりまで声に出しながら通読して流れを大体掴んでおけば、本番で指定語句がその記憶を思い起こさせてくれることでしょう。

また、問題文の時代設定には気を付けましょう。大抵の問題の頭には出題される年代が書いてあり、ここから外れた内容を記述すると大きな減点となります。この対策として、資料集などに載っている年表・ゴロを活用し、重要事項の年号を覚えてしまうという手があります。そして筑波大学の問題に臨んだ時、とりあえず指定語句を年代順に並べてみましょう。そうすると抜けている年代が見つかることが多々あります。その場合は自分でその年代に関する事項を考え出さねばならないので要注意です。最後に、世界史は定期テスト・模試の解説によって自分の理解度を測り、不足を補うことが肝要です。本番では時間配分に気を付け、書きやすそうな問題から取り掛かりましょう。健闘を祈ります。

## 日本史

まず、どの状況においてもいえることは、日本史の論述を試験科目にするに当たって、**教科書を軸に勉強を進めるべきだ**ということです。論述問題は教科書をもとにして作成されているので、極端な言い方をすれば**論述の内容は全て教科書に載っています**。なので、教科書をたくさん読み込みましょう。論述の添削をしてもらうことも重要です。添削をしてもらうことで、客観的な意見が聞け、本番の採点を想定することができます。

また、今現在の自分の状況を判断する基準として、**赤本**を解きましょう。これを解くことによって、今の実力が分かるだけでなく、その学校の入試形態、出題傾向などを少しでも把握し、これからの勉強の方針をある程度立てることができます。

そして、赤本を解いて、ある程度何も見ずに解答できた人は今までの勉強をそのまま続けて、**過去問や市販の問題集**などの実践的な演習をしましょう。解答できなかった人は、まず落ち込まないことです。まだ時間はあります。まずは基礎的な日本史の知識を正確に暗記しましょう。この際、**教科書や日本史実況中継**などを利用して、知識と一緒に流れも頭に入れるといいです。それを繰り返したのち、問題を解いて知識と流れの確認をするといいです。

「まだ時間がある」「もう時間がない」と感じ方は様々です。しかし、「光陰矢の如し」です。受験、頑張ってください。

# 5. 合格体験記

合格した先輩はどうやって勉強していたのか？気になりますよね。ここでは科目・入試ごとに対策をご紹介します。これであなかも klis or mast に入学できる ...!? ここでは後期入試 2 次試験「小論文」をご紹介します。

## 後期 ( klis )

### 理系

5 教科 7 科目 900 点 (リスニング含む) + 小論文 200 点

### 文系

5 教科 7 科目 (理科基礎の場合は 8 科目) (リスニング含む) + 小論文 200 点

点数配分がセンター：後期＝900：200 でセンターに比重が置かれている。また、例年後期入試は合格者最低点が 830～860 点付近にあり、人によっては、センターの点数だけで合格することも可能であり、現にそのような人も多数存在する。つまり、基本的にはセンターの点数がそのまま合格／不合格に直結すると言っているのだ。

後期対策！受かるために何をすればいい？

では、本題に移ろう。klis の後期は前述の通り、センターと小論文の 2 つの試験を通り抜ければ OK である。それぞれについて触れていこう。

### センター試験

全教科 8～9 割は欲しい。ここで頑張れば後が楽になるので何とかしよう。ただ、センター試験の出題が新共通テスト系に変わりつつあるので、過去問ばかりやるだけでは高得点は難しいかもしれない。

### 小論文

基本的には年によっていろんな分野の文章が出され、小問のうち少なくとも 1 つは自分の考えについて述べる問題がある。恐らくこの問題が配点が高いと思われるが、市販の過去問だと 3 年分しかなかったりするので、あまり練習できないかもしれない。不安なら、情報メディア創成学類や人文学類などの小論文を解くといい練習になる。

以上、2 つの試験について触れてみたが、まずは一度試験問題に目を通すのがいいだろう。そして自分の合格への方針を決めていけばいいと思うが、理想的な点数配分を紹介しておく、このようになる。

センター 740 点 / 900 点 + 小論文 130 点 / 200 点

## 後期 ( mast )

情報メディア創成学類の後期試験は大問 2 問の構成で、大問 1 では数理的な知識が解説された英文を読み、数式を解く、文章を和訳するといった問題が出題されます。問題形式が独特なので、初めて問題を見ると戸惑うかもしれませんが、落ち着いて読めばそれほど難しくは感じないと思います。専門用語の和訳の一覧もありますので、適宜それらを参照しながら理解を進めていきましょう。

大問 2 は情報メディアの分野に関する文章を読み、論述する問題です。昨年度はキュレーションメディアの問題点や解決策が問われました。キュレーションメディアについては 2016 年の冬にニュースで話題となっています。この分野の時事問題には、全国紙で取り上げられる程度のものには気を配っておくと役に立つはず。例年 50 字～200 字程度の記述問題が複数出題されますが、昨年度は 400 字という設問もありました。本番では下書き用の原稿用紙が配られますので、字数の配分に目処を立ててから、書くべき要素の過不足がないようにまとめましょう。

配点は、センター試験が 900 点、個別学力試験が 500 点となっています。よってセンター試験では高得点を取るに越したことはないです。前期試験での合格に近づくことにもなるので、対策は疎かにしないようにしましょう。

センター試験の国語や英語には小問 1 つあたり 8 点といった問題もありますので、早めに形式に慣れ、自分に合った攻略法を掴み、得点の浮き沈みがないように準備しておくのが良いでしょう。私は前期試験では筑波大学ではない大学を受験しています。とはいえ例年、前期・後期ともにこの学類に出願して、後期試験で合格したという人が一定数いるようです。後期試験の出願は前期試験の出願と同じ時期に行われますので、模試などで後期試験の志望校判定も忘れずに行なった上で、後期の出願もおきましょう。後期試験に関する情報は残念ながら十分とはいえません。後期試験の赤本で過去 3 年間の問題が入手できる程度です。もし皆さんが受験するとなった場合、何よりもまず前期試験での悔しい思いを引きずらないこと、そしてネットなどでの噂や予想といったものに左右されることなく、自分の実力を信じて受験することが大事です。

皆さんがこの学類に入ってたくさんの刺激を受け、夢の実現に近づけることを願っています…。

# 5. 合格体験記

合格した先輩はどうやって勉強していたのか? 気になりますよね。ここでは科目・入試ごとに対策をご紹介します。これであなかも klis or mast に入学できる ...!? ここではアドミッションセンター (AC) 入試をご紹介します。

## AC ( klis )

### 受験のきっかけ

私は大学附属の中高一貫校に通っていましたが、当然のように、附属大学に進学する予定でしたが、かねてから図書館情報学に興味があったのにも関わらず、担当の先生が私が大学に入学するにはご退職されるのが高校3年生の夏に発覚しました。そこで唐突ではありましたが、浪人覚悟で受験を決めました。

### 中高時代の過ごし方

中高間に部活の交流はありませんでしたが、同じ「図書部」という部活で図書館に関係する活動をしていました。その中で国立国会図書館 ( National Diet Library ) を数回訪れる機会や図書館流通センター ( TRC ) で取材させていただく機会などに恵まれました。図書館がより好きになり、学生生活の中心を図書館に置きました。資料リクエスト管理担当など、図書館の運営に関わらせていただいたことで、図書館とのつながりがより密接になっていきました。また高校では、生徒会に所属し、情報の伝達の難しさ、共有・運営の難しさを痛感しました。いくつもの書類を書き、批判を受けながらも既存のルールをより良く変えたり、新しい規則を作ったこともありました。それに加え、展示作成や UI ( ユーザーインターフェース ) の作成から人に伝える際にどのようにして伝えるべきなのか、深く考えさせられました。こうした経験から、資料を司る図書館、特に資料保存の分野に深く関わりたいと感じるようになり、図書館情報学の道を志したいと思うようになりました。

### 試験対策

きっかけにも書いた通り、突発的に決めたこともあり、自己推薦書は1か月で仕上げる必要がありました。まずは自分は今まで何をしてきたのか、それを客観的に示せるものは何か、ということ。「読書科」(総合的な学習の時間)を担当され、また司書教諭であった中学校の先生と一緒に考えていただきました。そこから、自分が最も言いたいこと、アピールしたいことをピックアップし、志願理由書 ( 800 字 ) にまとめました。また、それらのアピールポイントを社会からも認められていたことを示す、自分が取材を受けた新聞記事や、自らの活動の軌跡を自己推薦書に詳細に記載することで、それらのポイントの強化を図りました。そして、私の図書館に関わりたいという思いの本質について考え、どういった形で資料保存に関わっていきたくかを具体的に考えました。

2次試験までの間は、志願理由書を読み返し、団体の中で自分は具体的にどんな役割を果たしたかなど、今までの自分のことを事細かに思い返した程度で、面接の練習などは行いませんでした。むしろ生徒会の活動に打ち込むことで、志望理由書・自己推薦書を書いてから面接までの間にもどれだけ成果を作り上げたかを語れるようになっていました。当日は、自分の今までの活動に自信と誇りをもって向かうことで堂々とした返答をすることができました。

### 一言

今までの自分の活動に自信と誇りが持てますか? 持てる方は、AC入試を受けてみるべきだと思います。今までの自分、これからの自分、どうなるかはわかりませんが、「好き」という気持ちは変わりません。「好き」だけではつとまらない、でも「好き」でなければつとまらない。

図書館情報学 ( 知識情報学 ) は一般になじみのない学問です。ときに哲学的、ときに理論的に考えて、「知識」とは何かを考えさせられる場です。貴方の「好き」と一緒に挑んでみませんか。お待ちしております。

## AC ( mast )

### 受験のきっかけ

私が AC の存在を知ったのは、高校2年生のときです。私は3度、Webコンテストで受賞し世界大会に出場した経験があったため、これを受験に活かさない手はないと思い出願しました。しかし AC で最も重要視されるのは問題解決能力です。合格者の中には、受賞経験のない人もいました。自分の問題発見、解決能力をいかにアピールできるかが鍵となります。

### 中高生時代の過ごし方

私が通っていた中高一貫校では、中学2年生からWebコンテストへの参加が課されており、その過程でWebデザインに興味を持ちました。私が出場したWebコンテストは、4、5人でチームを組んでサイトテーマを決め、教育的価値の高いWebサイトを作成し競い合うというものでした。ファイナリストは参加者200人と審査員の前で質疑応答を含めたプレゼンテーションを行い、自分達のWebサイトをアピールします。もちろん最初からWebサイトを上手く作れるわけではなかったので、過去受賞者の作品やネット上の素晴らしいWebサイトを参考に、閲覧者に見やすくわかりやすいサイトを目指し研究を重ねました。Webサイトの出来だけでなく、チームのコラボレーションやプランニング、マーケティングも評価対象になるため、リーダーとしてメンバーの役割分担や仕事の割り振りに苦労したり、ユニセフやNPO団体に取材に行ったりと様々な経験を積むことが出来ました。

### 試験対策

1次試験で提出する自己推薦書は、情報メディア創成学類のACには特に規定がありません。そのためレポートを何十枚も出す人もいれば、十数枚で出す人もいました。私は、アピールポイントがWebコンテストでの経験であったため、ACの提出資料としてWebサイトを作成し、そのデータ自身と印刷したものを提出しました。また一般的な推薦入試では、より試験員の印象に残る工夫が必要です。私はWebコンテストでどんな課題を発見し解決してきたかの説明に加えて、資料の文中にパステルなカラーリングの素材をテーマごとに色分けして挿入し見やすくしたり、添付資料 ( 過去に作成したサイトや掲載記事 ) を該当箇所にリンクすることで一々資料を探す手間を解消し、問題解決能力をアピールしました。次に2次試験の面接対策ですが、私は学校の先生に面接練習に付き合ってもらいました。個室の中で大人に面と向かって質問されるのは自分が思っているよりも緊張します。適確に応えられる自信がなくても、その状況を何度か体験しておくことをお勧めします。あとは自分が提出した自己推薦書と志望動機をしっかりと見えるように練習して、自分の興味があることや将来やりたいと思っていることについて語れるように考えておきましょう。

### 一言

私はACの推薦書準備や面接練習に貴重な高校3年生の約3ヶ月間を費やしました。合格者数も定員4人と少なく、リスクは高いと思います。しかし、もしあなたが何かに深い興味を持っているのなら、mastは合っているかもしれません。情報メディア創成には、メディアアート、音響、医療機器など、本当に様々なことに興味をもった人がいます。そんな面白い仲間たちと共に、自分の好きなことをもっと発展していけると思います。ACに興味を持った人がいたら、筑波大学がサイト上に掲載しているAC合格者のレポートを見てみてください。

# 5. 合格体験記

合格した先輩はどうやって勉強していたのか? 気になりますよね。ここでは科目・入試ごとに対策をご紹介します。これであなたも klis or mast に入学できる ...!? ここでは推薦入試をご紹介します。

## 推薦 (klis)

私は高校2年生の暮れに、担任に推薦入試を勧められたのがきっかけで筑波大学の推薦を受けようと決めました。

しかし、受験勉強を本格的に始めたのは、高校3年の9月からです。(つまり推薦入試まであと2か月) こんなことはせずに計画立てて受験勉強してください。

では、どうやって合格を勝ち取ったのか? 私は、9月から逆転合格するために次のようなことを心掛けました。

☆過去問を1日1問解く(最低でも8年分を2周すること!)

☆英単語などは長文の中で覚える

☆自分が解いた過去問を先生に添削してもらう

☆添削してもらったらその日のうちにもう一度解く

☆夜型から朝型に生活リズムを変える

☆どんなにひどいことを先生に言われても絶対にめげない

この6つを徹底して行い習慣化しました。

たとえば学校の行事や入試前日であろうとこの習慣を貫き通しました。

特に6つ目は大事なことです。「このままだと受からない!」と先生たちは生徒のやる気を出させるために脅してきます。日頃から心を強く持つようにしましょう。

また、面接は入試1か月前から対策しました。しかし、今年度からビブリオバトルを取り入れるとのことなので、もう少し早めに面接は対策を打って練習するべきだと思います。

最後に、知識情報・図書館学類の小論文は、内容が必ずしも「情報」分野と言い切れません。それは過去問を解けばわかるはずですが。様々な雑学、知識などを日頃から取り入れていくことをお勧めします。「受験期はテレビを見るな!」という人もいますが、教養のあるテレビ(ニュース、クイズ番組など)を見て教養を深めるのも1つの手だと思います。どんな方法でもいいので幅広い知識を身につけたほうが小論文に有利です。

## 推薦 (mast)

### 受験の動機

高校時代、私は特に夢もなく、行きたい大学もなく迷っていました。ただ、昔からパソコンや情報系の事には興味があり、結果、講義内容がよくわからない学類名に惹かれてこの学類に入りたいと思うようになりました。そして、一般入試では厳しいかな...とか、受験早く終わらせたいな...といった思いから高3の春頃から推薦入試を考えました。

### 推薦入試について

情報メディア創成学類の推薦入試は小論文、面接(口頭試問あり)の2つです。

### 対策

小論文については過去問を見てもらうのが早いと思いますが、1つは数学的な話題について英語で書かれた文を読み、それについて何個かの大問に答えるものです。

内容はユークリッドの互除法や、シャノンの情報量についての問題、論理パズルだったり、無限集合についてだったり様々ですが、英語故に難しく感じるだけで、すごく基本的なことを述べていることが多いです。情報系・数学系の問題であることに変わりはないので、過去問を解きつつ基礎的な数学の英単語を覚えていくのがオススメです。日本語の小論文の方は年によって書かされる文の量や内容にバラつきがありますが、大切なのは出題者がどんな解答を求めているのかを汲み取ることだと思うので、添削をしてもらって指摘してもらって良いと思います。過去問が中々手に入らないかもしれませんが(昔の赤本はプレミアで1万円ぐらいする...) 2~3年分を解いてみるとなんとなく感覚が掴めると思います。

面接については、あまり練習しすぎない方が良いと思います。本当に行きたいのであれば自然な受け答えができるはずですが。多少緊張していてもみんな同じなので気にしないで大丈夫です。

### 終わりに

本当はもっと役に立つような情報を載せたかったのですが、なかなか上手くまとめることができませんでした、すみません...

ただ、重要なのはあまり気合を入れすぎないことだと思います。受かったらラッキーぐらいの感覚で、楽しむぐらいの気分で受験できれば緊張もしないで案外上手くいくかもしれません。

また、推薦入試に関してはなかなか情報が手に入りません。私はtwitterで先輩に推薦入試について詳しく教えてもらって、凄く助かりました。

私が先輩のように上手くサポートすることができるかは分かりませんが、分からないことや知りたいことがあったら是非 @LgCaNb まで DM でも何でも送ってください。全力でサポートします!

# 6. 生活体験記

筑波大生はその多くが茨城県外からやってきます。そのため一人暮らしをする学生も多く、そのための設備も多いです。その暮らしぶりを伺ってみましょう。ここでは春日学生宿舎をご紹介します。

## 学生宿舎

僕は春日学生宿舎に住んでいる。筑波大学にはいくつかの学生宿舎がある。一の矢、平砂、グローバルヴィレッジ、追越、そしてここ春日である。新入生の入居者はおおむね学類に沿って分けられる。

春日宿舎は春日エリア内に建てられており、知識情報・図書館学類、情報メディア創成学類、医学類、看護学類、医療科学類の学生が主に住んでいる。1号棟(女子棟)と2号棟(男子棟)があり、この2つの棟はほぼ24時間の厳重な警戒態勢によって隔たれている。

部屋は6畳でそこまで広くないがそれなりに快適な暮らしができる。水道とガスは自分の部屋には通っておらず、各階にある共用の補食室で水を使ったり調理をしたりする。トイレも各階にあり共用で使われている。1階には大浴場があり17時から22時まで利用できる。自分の部屋はあるが大勢でシェアハウス(男だらけのテラスハウス)をしているようなイメージだ。

アパート暮らしに比べると融通の利かない面もあるが、宿舎には宿舎なりのメリットがある。まず、宿舎では他の住人との距離が近く、友達がたくさんできる。勉強や日々の生活での助け合いはなくてはならないものだ。自炊のできる友達に料理を習ったり朝起こしてもらったりするのだ。その隣人たちとの兼ね合いの中でコミュニケーション能力が磨かれる(気がする)。そして、春日エリア内にある春日宿舎は授業が行われる教室が近い。

このように宿舎ではアパート暮らしにはない恩恵を得ることができるのだ。

【筆者の部屋の様子】



## 学生宿舎

今回、春日宿舎の生活について私の実体験を元に時系列順に書いていこうと思います。

### 宿舎入居前:

宿舎入居日が入学式の2日前というかなり急な日程だった為、その2、3日前から現地入りして大学生活が始まる前にコンビニやATM、書店などの主要施設の位置を把握しておこうとしました。

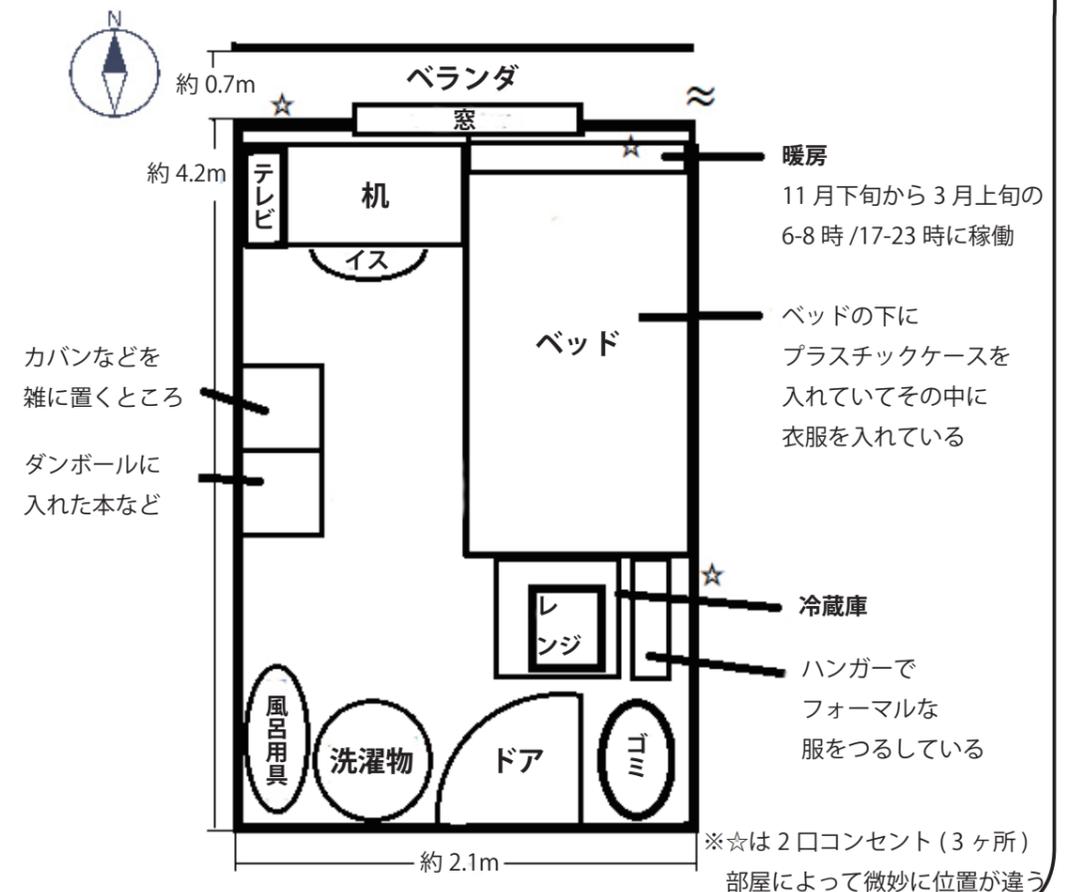
### 宿舎入居日:

ややこしい手続きを済ませました。印鑑を忘れて最悪でした。ネット上で宿舎はかなり悪評が高いのですが、嘘だろと思うほど部屋の中は住みやすそうで綺麗でした。

### 宿舎入居後~1ヶ月:

5月までは新歓に行くので毎日1、2食お世話になり自炊はしませんでした。ピザ、焼肉食べ放題を2週間ほど続けた結果私は胃腸炎にかかったので少しは自炊をして野菜を取りましょう。これはかなり重要です。

### 【筆者の家の間取り】



# 6. 生活体験記

筑波大生はその多くが茨城県外からやってきます。そのため一人暮らしをする学生も多く、そのための設備も多いです。その暮らしぶりを伺ってみましょう。ここではアパート暮らし(通称アパ民)をご紹介します。

## アパート

アパートの特徴といっても、大体のことは、「アパート 宿舍」「大学生 アパート」などで検索していただいても分かります。若干情報が古いけどアパートに関しては概ね信用してオッケー!だから今回は調べてもあまり出てこなさうだけど実は重要! みたいなことを話せばなと思います。

まず、アパートを実際に見に来ましょう! 結局はその場所の雰囲気が大事になってきます。つくばの不動産屋さんに行きましょう! 大体の不動産屋さんが、つくば駅から徒歩では遠いところにあります。惜しまずバスを使いましょう。

決めポイントをいくつか紹介します。つくばでは予想外の悪天候が頻繁に起こります。自転車通学になることはほぼ確定と思ってくれてよいアパート民にとっては、天候はかなり重要です。悪天時はバスはギューギュー。通学に悩まされないように、大学に行くのがめんどくさくならないように、なるべく大学に近いところしておくべきです。あとはコンビニが近くにあれば(スーパーであれば尚更)よいです。入学してすぐにある、新歓では先輩にご飯をご馳走していただけることもありますが、それが終わると食糧は自分で準備するしかありません。ここからが真のサバイバルです。コンビニやスーパーの近くを選びましょう。以下は、アパート生活に対する僕なりの見解です。

- ・古い建物では身長が高いと頭をぶつけるほど大昔の日本人基準建築。排水管が臭いことも。
- ・課題が分からない時、アパートだと孤立する。LINEなどを駆使せよ。友達はなるべく多く作れ。
- ・とにかく自由。
- ・シャワーもトイレも食事もいつでも自由にできる。
- ・家賃は2万円後半から4万円後半くらいまでで大体OK。バイトしてレベルアップもあり。
- ・生活費、特に電気代はエアコン使用により跳ね上がる。節約のために冷房のよく効いたサテライト室、全学計算機室を利用するとよい。勉強すべし。健闘を祈る。

【筆者の部屋の間取り】



## アパート

ごきげんよう。一人暮らしに憧れているけど、アパートと宿舍どちらに住もうか迷っている人も多いのではないのでしょうか?そこで今回、(自称)MAST18 随一の家事プロの私が、アパート住みのメリットとデメリットを紹介します!!

### メリット

プライベートの空間ができる。アパート住みのメリットはこの一点に尽きるのではないのでしょうか? 宿舍に比べれば部屋も広いですし、好きな家具もおける! 風呂にもいつでも入れるし、友達を好きなように呼ぶことができる! しかし、自由には責任も伴うものです。

### デメリット

プライベートな空間を持つと、その空間の手入れを自分でしなければなりません。アパート住み民の最大の敵、それはなんといっても『家事』です。食品の買い出し、洗濯、掃除、料理、食器洗い、ゴミ出し... 案外家事に時間を取られてしまいます。大学から近いと宿舍の民のパーティ会場になることもあります。家事が嫌いな人は、少しでも気をぬくと足の踏み場がなくなり、部屋に異臭が充満することになります。(経験談)生活習慣は生活を初めてから1ヶ月が勝負!(ここ最重要!)。1ヶ月綺麗に部屋を保てば部屋が汚くなることはそうそうないでしょう。

### 宿舍との違い

宿舍はシャワーを浴びるために1回100円が必要です。それに加え、春日宿舍は声がよく響くため少しの話し声に気がなってしまいます。きちんとしたプライベート空間が必要な人にはアパート暮らしをお勧めします。それでも、友達と気軽に会えたりお金もアパートよりはかからないので、気にしない人は宿舍でもよいと思います。

暮らしのことについて語ってアパートのデメリットもあげましたが、私はアパート暮らしをして正解でした。結局は個人の嗜好の問題ですので他の方々の意見も聞いてみて結論を出すことをお勧めします。それでは、ごきげんよう。

【筆者の家の間取り】



# 6. 生活体験記

筑波大生はその多くが茨城県外からやってきます。そのため一人暮らしをする学生も多く、そのための設備も多いです。その暮らしぶりを伺ってみましょう。ここでは Global Village と自宅通学をご紹介します。

## Global Village

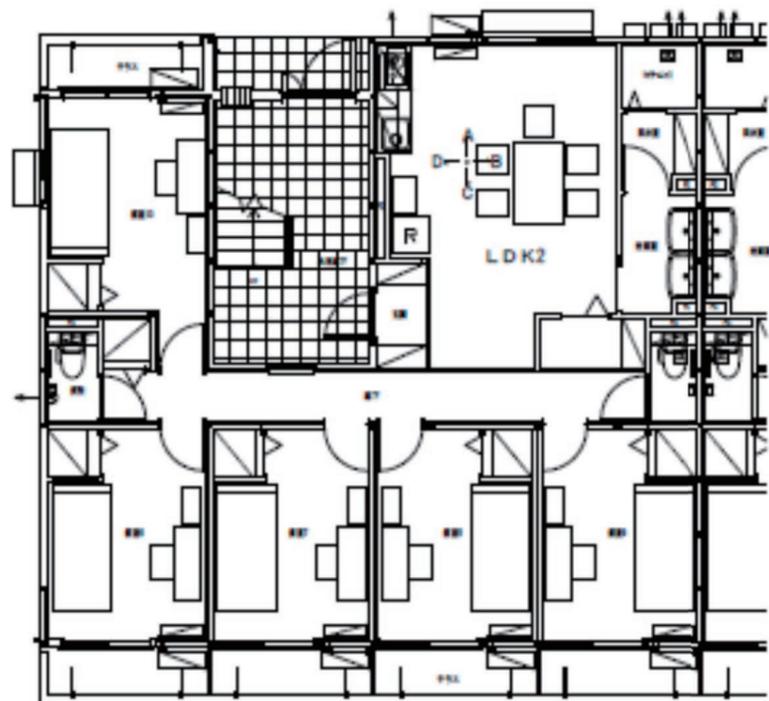
Global Village(通称グロビ)は比較的きれいで住みやすいシェアハウスなので、一人暮らしを始める新入生にはとてもおすすめです。5人で1つのユニットで、1人1つの個室があり、部屋ごとにWi-Fiが設置されています。新入生は基本的に新しくできた新棟に振り分けられ、1年生同士で楽しく共同生活をする事ができます。

入居費はアパートに住むのとあまり変わりませんが、知らない人との共同生活はとても有意義なものとなるでしょう。また、電気代や光熱費は大学が何割か負担してくれているようで、とても安いです。さらに、オートロックの建物玄関、ユニットごとの玄関の鍵、個室の鍵の3重ロック、防犯カメラによる敷地内の監視体制や、夜間管理員による見回りで、防犯もばっちりです！それに、グロビの周りは夜でも常に明かりがついていて外が明るいため、夜間の帰宅でも安心です。

グロビのいいところはいろんなものが近いことにもあります。本学や英語の授業が行われるCA棟と、普段の授業が行われる春日の間に位置し、すぐそばの平砂共用棟では、4月は毎日新歓の勧誘が活発に行われています。サークルの活動も本学付近で行われることが多いのでグロビに住んでいるとアクセスしやすいことが多々あります。「留学生と話せるかな？」という不安もあるでしょうが、留学生もある程度日本語を学んできているし、比較的日本人が多いので、「英語が喋れなくて困っている」という話は聞いたことがありません。

イベントも充実しており、夏祭りや生け花体験があったり、交流会があるなど、留学生と仲良くなる機会がたくさん用意されていますので、積極的な参加をお勧めします。他の宿舎やアパートとはだいぶ違っているのでグロビに住むのを決めるのは多少勇気があるかもしれませんが、ぜひ一度ご検討ください。

【グロビの間取り】



## 自宅通学

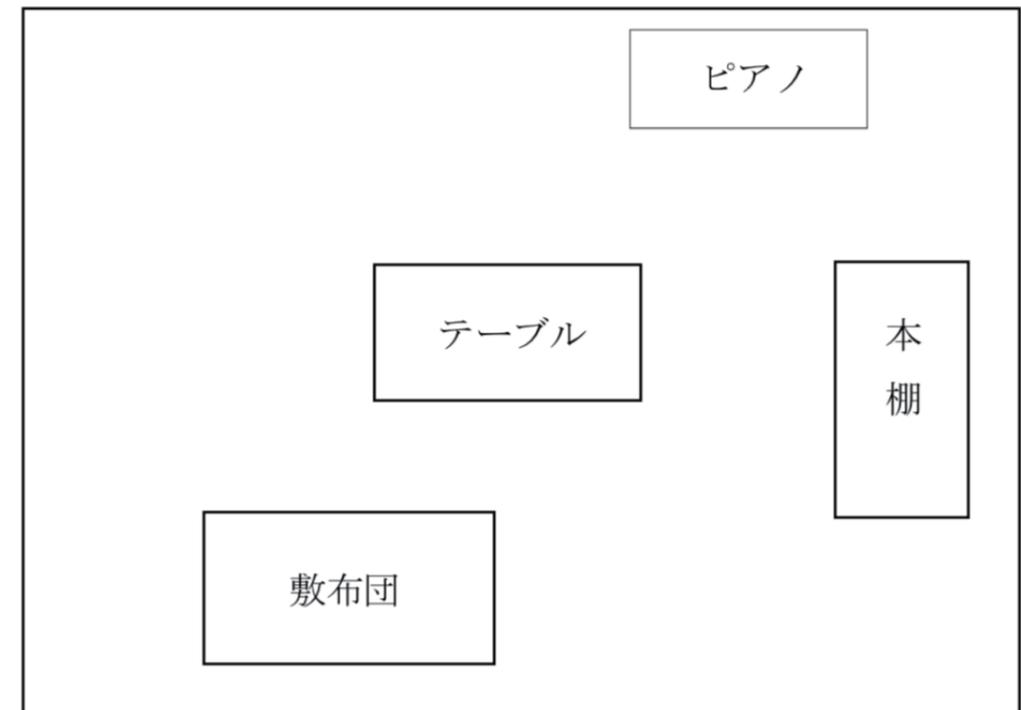
私は茨城県内に住んでいて、実家から通っています。通学時間はおよそ1時間半です。私が3ヶ月と少し大学生活をしてきた上での、宅通のメリットデメリットをご紹介します。

まず、メリットはなんといっても「家事をやらなくてすむ」という点です。アパートや宿舎に住んでいる子の話を聞くと炊事、洗濯とやる事が多くてたいへんそうです。その点、宅通はすべてを自分でする必要がありません。もちろん子として家事の手伝いはしますが、自分がやらないとご飯が食べられない、服がない、ということにはなりません。授業やバイトなどがあって帰宅が遅くなったとしても、自分でご飯を作ったりお風呂を沸かす必要がないのはありがたいことだと思います。また、家に帰ってきたときに、「おかえり」と言ってくれる人がいるのは嬉しいし、安心できます。

そして、デメリットは「友人が作りづらい」という点です。通学に時間がかかるとなると、たとえば夜のサークルの集まりに参加できないですし、終電、終バスがあるため盛り上がってきたところで「この辺で帰ります...」と言わなければなりません。また、休日につくばにいる子同士では気軽にカラオケなどで遊べますが、宅通は基本誘われづらいです。このように、友人と付き合う機会が少なくなってしまうのがデメリットかなと思います。日々の授業や生活の中でも十分友人は作れますが、やはりアパートや宿舎の子同士のほうがきっかけは多いのかなと感じます。

最後に私の部屋の間取りですが、勉強する部屋も寝る部屋も自由なのでこれといった部屋がありません(和室なので敷布団で自由に寝られます)。その日の気分に合わせて勉強する場所を自由に変えられるのも実家暮らしの良いところだと思います。間取りは特に使う部屋のもの。

【著者の部屋の様子】



# 7.サークル

大学生といえばサークル！筑波大にも多くのサークルがあります。ここではその一部をご紹介します。  
こんなサークルあるの!? という発見があるかも ...?

## サークル概要

大学生生活の醍醐味のひとつとしてサークル活動があります。「こんなサークルに入りたい!」「新しくこんなことを始めたい!」と考えている高校生や受験生の方も多いのではないでしょうか。筑波大学には 240 を超えるサークル・学生団体が存在するので、きっと皆さんの希望を叶えるサークルが見つかると思います! サークルに興味のない方も、ちょっと調べてみると「エッそんなサークルが ...!?!」という驚きがあって面白いかもしれません。

### ▼どんなサークルがあるの?

多すぎてここには書き切れません ...。サークル・学生団体の区分と Web ページへのリンクを載せるので、調べる際の参考にしてください。

・課外活動団体：認定を受けた学生団体

→文化系サークル連合会 (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~bunsa/wiki/doku.php>)

→体育会 (<https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taiikukai/>)

→芸術系サークル連合会 (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>)

・一般学生団体：認定を受けていない学生団体 (<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/pdf/gakuseih.pdf>)

### ▼新歓って?

4～5月の間に行われる新入生勧誘イベントです。タイミング次第では、毎日違うサークルの新歓を渡り歩き食費を浮かせる猛者もいるとか。サークルの雰囲気を実際に感じる事ができたり、先輩から授業やサークル選びのポイントを聞けたり、新歓で一緒になった子とお友達になれたりする大事なイベントです。

### ▼掛け持ち

所謂兼サーです。筆者の体感では兼サーの人は結構います(筆者も兼サー)。複数のサークルに所属していたら他のことができないのでは ... と不安な方もいるかもしれませんが大丈夫!自分の気力や体力と相談して選びましょう。

## 大学の生徒会

サークルではありませんが ...

筑波大学には全学学類・専門学群代表者会議(通称全代会)という組織があります。この組織は中学校や高等学校における生徒会のようなものです。

会議に参加するには座長団と呼ばれる人になる必要があります。そのためには、まず各クラスから1名以上選出されるクラス代表者になりクラス代表者会議のメンバーになります(通常代表者会議は学類・専門学群単位で行いますが、春日は“エリア”として klis、mast 合同で行います)。そのメンバーの中から学類・専門学群につき3名が座長団として選出され全代会の構成員になることができます。

全代会で扱われる議題は様々です。例えば、雙峰祭(文化祭)を開催する日程や規則など、イベントに関する議題もあれば、授業の履修登録期間(この授業を受けます!と申請したり、その申請を取り下げることができる期間です)に関する議題を会議で議論してその結果をまとめ、大学側に学生の希望を伝える大切な場です。

全代会の存在は、一般の学生にとって遠いものであるかもしれませんが、学生の生活を陰で支えていたり、よりよくするために日々研鑽・努力をしています。座長団にならなくとも、その活動は知っておいていただけると嬉しいです。

活動の内容は Web サイトや、Twitter で報告していますので、興味のある方はぜひみてくださいね。

全学学類・専門学群代表者会議 HP <https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/home/>

全代会広報アカウント(Twitter) [https://twitter.com/public\\_zdk](https://twitter.com/public_zdk)

【全代会の HP のホーム】



# 8. イベント

筑波大学での1年を特徴的なイベントから見てみましょう!!  
他にはないイベントがちらほら...!?

4月～5月

春 A

## 入学式

大学会館で2回に分けて行われる。プロの歌手を招いて歌う学生歌(「IMAGINE THE FUTURE.」)は必聴。

5月～6月

春 B

## 新歓本祭

サークルの勧誘が一斉に始まる。気になるサークルはここでチェック!

7月～8月

春 C

## 夏休み

なんと2ヶ月もある! やりたいこと、好きなことを追求する時間にしよう。

## やどかり祭

1年生が主体のお祭り。目玉はゆかたとパフォーマンスのミスコン「ゆかコン」。

## A、B、Cって?

大学では単位を修得すると進級・卒業ができます。授業は1コマ75分で行われます。夏休みを挟んで1年に春学期と秋学期があり、さらにそれぞれABCの3つのモジュールに分かれています。1つのモジュールは5週間です。授業にはABモジュールを通して10回行われるものと、ABCモジュールを通して15回行われるものがあります。週1コマ×10回で1.0単位が、週1コマ×15回で1.5単位が修得できます。知識情報・図書館学類や情報メディア創成学類の授業はほとんどABモジュールで終了しますが、他の学類にはCモジュールまで行われる授業も多くあります。そのため、他の学類が授業を受けているCモジュールの間、比較的有意義に時間を活用することができます。

10月～11月

秋 A

## スポーツデー

筑波大の運動会。各種スポーツやミニゲームが楽しめる。春にもある。

11月～12月

秋 B

## 雙峰祭

3日間かけて行われる、筑波大の学園祭。ステージや模擬店、何もかもが大規模。

## 春日豆知識

春日エリアに限らず、筑波大生には自転車が必要とされています。特に、春日エリアの学生は天王台エリアの人よりも重宝します。天王台～春日間を移動する、「エクストリーム移動」(通称エクストリーム)を行うことがあるからです。

受講する授業がさっきまでは春日エリアの授業だったのに、次の授業は天王台エリア...なんてことが起こってしまうことがあります。こうなると、15分で次の授業場所に行かなければなりません。もちろん、授業が定刻に終わらないこともあれば、信号にひっかかってしまうこともしばしば。こうなると次の授業には遅れてしまうかも...?!

筑波大生になりたい人は自転車のスキルも磨いておこう!(道路交通法は守ってね。)

1月～2月

秋 C

## 卒業式

大学最後の晴れ舞台。袴を着る学生も多数見られ、会場が賑わう。

## 春休み

冬休みが短い代わりに、春休みも2ヶ月と長い。有意義に過ごそう。

## 編集委員

Web 版のため略

## 特別寄稿

歳森 敦 先生 (知識情報・図書館学類長)

河辺 徹 先生 (情報メディア創成学類長)

## 寄稿 (敬称略 50 音順)

Web 版のため略

## 表紙

Web 版のため略

## Special Thanks

知識情報・図書館学類の教職員の皆様

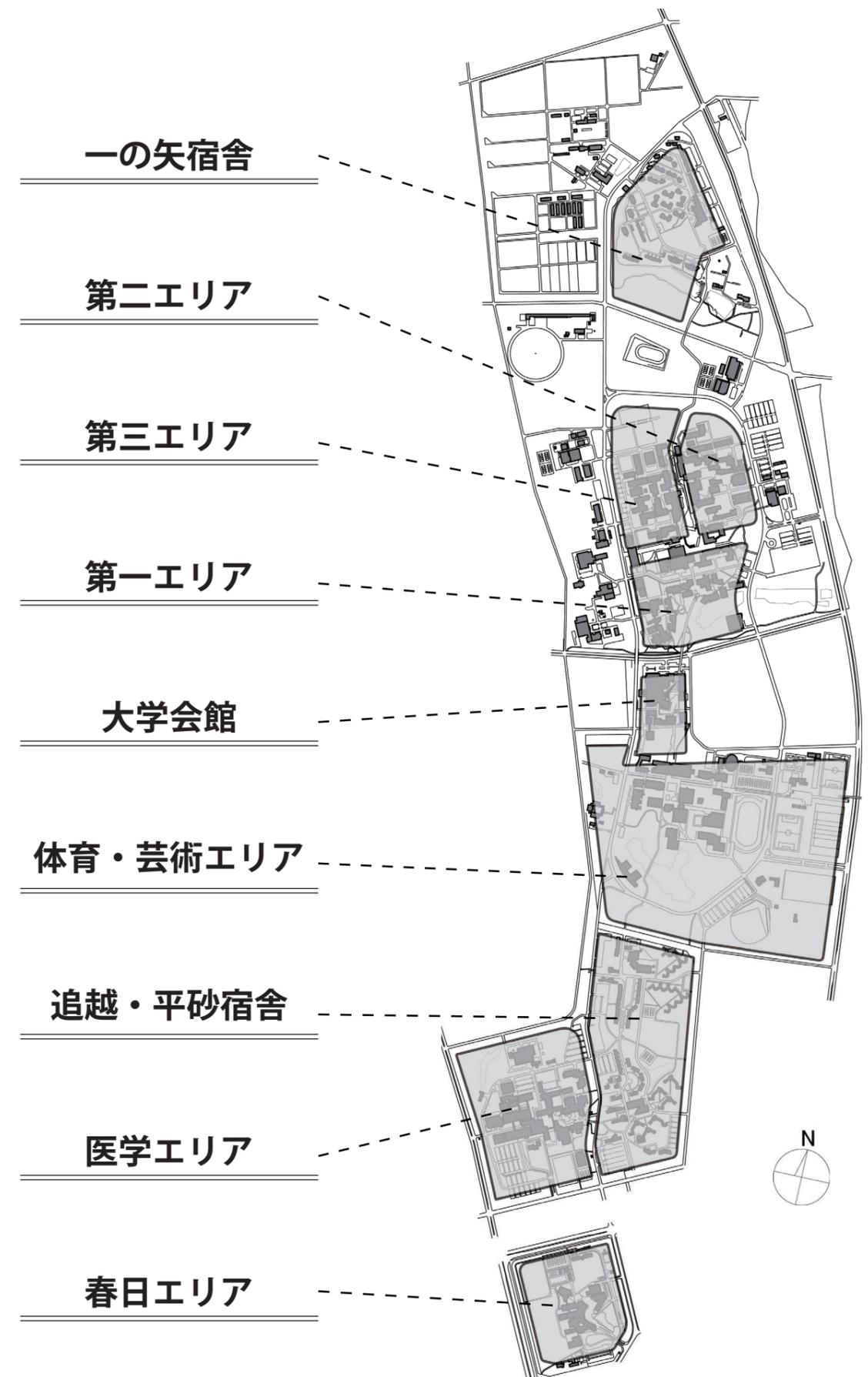
情報メディア創成学類の教職員の皆様

図書館情報エリア支援室の皆様

春日地区クラス代表者会議

過去のかすがらいふ編集委員の皆様

その他、ご協力いただいたすべての皆様

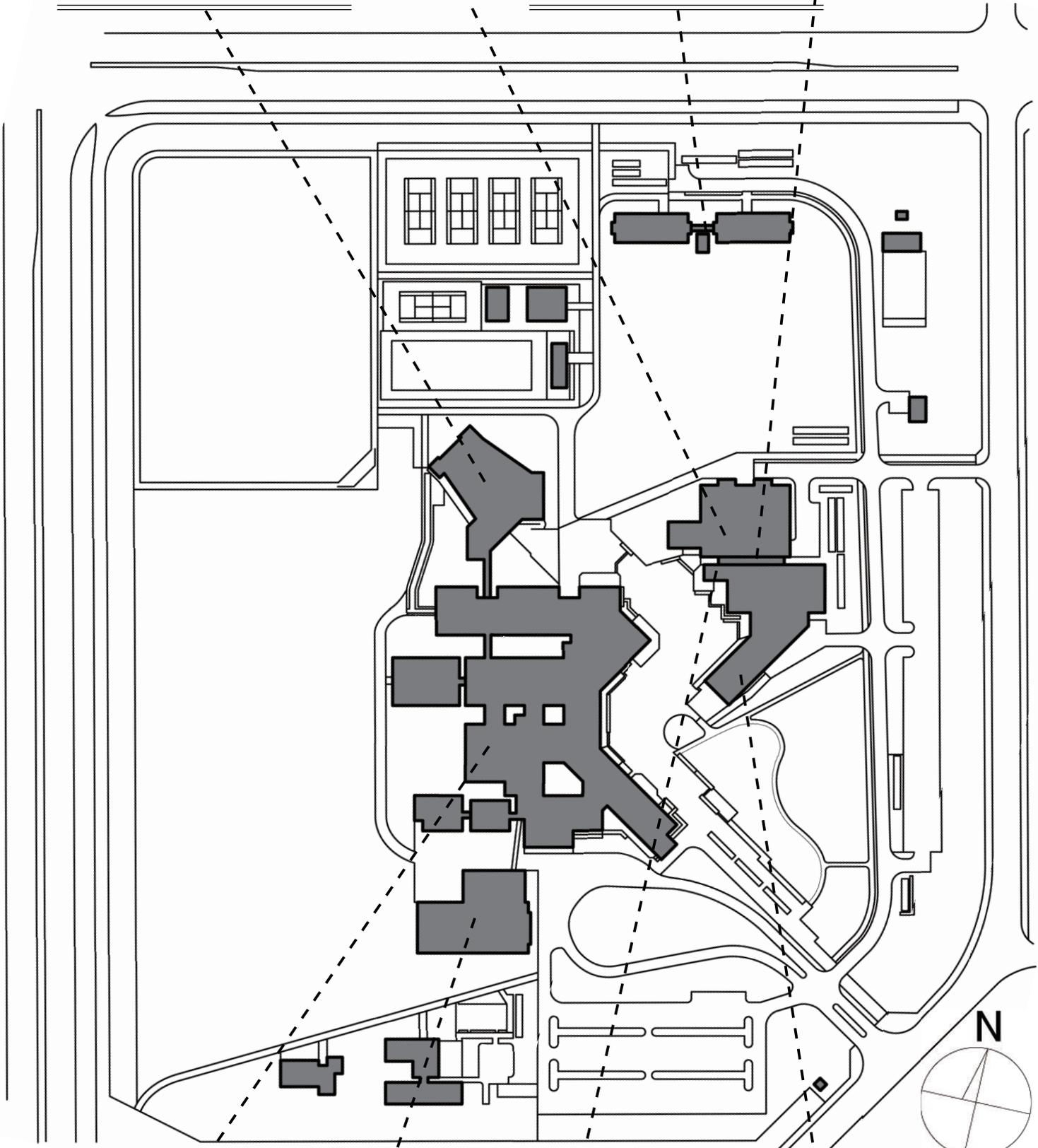


体育館

書籍部

春日講堂

春日宿舍



図書館情報学図書館

ラウンジ

情報メディアユニオン

春日食堂